

平成 27 年度共同利用型（個人研究）の研究成果報告書

2015 年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」共同利用・共同研究（個人型）で、本年度は 2016 年 2 月 17 日から 19 日の間に北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターに滞在した。研究テーマは「インターネットと自画像ー亡命ロシア文化、都市と自意識についてー」で、主に滞在中の期間に行われていたヨーロッパの難民問題に関する UBRJ セミナー「越境する中東難民と欧州安全保障」を聴講し、討論者たちに現代ドイツにおける多文化主義言説の変化に関して質問した。主要な研究成果としては、

- 1) Самиздат как метафора Интернета // Ценностные ориентиры современной журналистики: сб. науч. ст. III Междунар. науч.-практ. конф. (г. Пенза, 24-26 сентября 2015 г.) / под ред. доц. Е.К. Рева. Пенза, изд-во ПГУ, 2015. С. 66-70.

論文「インターネットのメタファーとしてのサミズダート」がロシア連邦ペンザにて出版されている。セミナーでは、中東難民とヨーロッパの関係について主に語られており、日本では割と肯定的にとらえられることの多い「多文化主義」が現代ヨーロッパでは批判され、それは以前には建前的にも公的には批判しないものだったが、難民問題以後、公の場でも批判の対象になっていった、というようなコメントが参考になった。ドイツのケルンの新聞報道で「Multikultur stoppen」というバナーを掲げた行進が印象に残っていた。その他、前日に行われていた研究会の打ち上げに合流したり、北大の若手研究員の皆さんとは深夜まで議論し、また、センターの事務の皆さんにもお世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。